



時は金なり

先日の5月の生徒指導委員会で、最近の応中生は、少し時間を守れていないことがあるのではということが先生方から出されました。体育のあとの授業、特別教室から移動する授業に遅れてくる人がいる、また、あまり危機感がなく、忘れ物を取りに行っていた、友だちを待っていた等の理由で、ゆっくりと移動し、チャイムに間に合っていないことがあるとのことでした。朝はあんなに頑張っていて登校してきているのに、大切な授業に遅れていくとは、ということなのだろうと驚きました。授業に遅れてきた人がいて、その人に理由を聞いたり、準備を待っていたとして、授業開始が5分遅れたとします。すると、1日30分の時間の損失となります。5日で150分、つまり1週間で2時間半の時間の損失です。1ヶ月で10時間。ものすごくたくさんの時間を失っていることとなります。10分間の休み時間は、次の授業の準備をする時間です。もちろんトイレに行ったり、お茶を飲んだりすることも必要です。でも、「まあいいか、ちょっとぐらい」と甘い気持ちで友だちとおしゃべりして、体育の着替えが遅くなり、次の授業に遅れると、みんなの時間も奪うこととなります。それは、授業が始められないからです。

中学校では、小学校と違って、毎時間の先生が替わりますので、毎時間ごとの授業遅刻が記録されます。朝の会、1～6校時、帰りの会と中学校では、多い人は1日8回の遅刻が記録されます。通知表にも記載されます。朝は一度も遅刻したことがないのに、なぜこんなにたくさん遅刻になっているのだろうと思う人は、それはおそらく授業に遅刻した回数が多かったからです。ということにつながっていきます。

家にいるときは、自分のペースで勉強したり、食事したりしていいと思います。しかし、学校では集団生活をしています。授業も給食も時間が決まっています、それでみんなが動きまわります。給食当番の人は食器を給食室に返却に行かなければなりません。委員会の人は給食室でビニール袋等をまとめて捨てる仕事などをしてきています。どこかのクラスの誰かを待っているのは一人ではないのです。みんなの時間が失われてゆきます。

もちろん体調の悪いとき等どうしてもみんなと同じように動けないときもあると思います。それはかまわないのです。でも、可能なときは、「まあいいか」という気持ちは捨ててほしいのです。自分の時間が失われるだけでなく、他の人の時間も失われてしまうことに気づいてほしいと思います。

先生方が27日(金)に一齐に話をしたら、みんなが頑張っていてすばやい移動や準備ができました。体育の次に移動教室の授業があるクラスの人が、その教科の準備をもって体育の授業に行っている姿を見ることもできました。給食準備が早くできて、みんな喜び合っている姿も見ることができました。さすが応中生。やればできるのです。さすがです。これからも、「時は金なり」、時間を大切にしたいと思っています。



